

市大病院情報誌



そよ風

Smile! / Service! / Science! 笑顔の大学病院を目指しています

Contents 2020年6月 第38号

- ▶ 造血幹細胞移植推進拠点病院は第2ステージへ
- ▶ 側弯症の治療について
- ▶ 大阪府で初!! 最新型PET/CT装置が導入されました -MedCity21の人間ドックで、最新のPET/CT検診が受けられます-
- ▶ 大人気!! 肝臓病教室を開催しました!!
- ▶ 災害訓練で地震等発生時の多数傷病者の診療をスムーズに!
- ▶ 医療の質向上に向けたKAIZEN報告会が開催されました
- ▶ 認定看護師の活動について
- ▶ イベント情報

診療科紹介 腎臓内科



造血幹細胞移植推進拠点病院は第2ステージへ

当院は、2013年に日本で最初の造血幹細胞移植推進拠点病院(以下、移植拠点病院)の1つに選定され、現在までに718件の同種造血幹細胞移植を行っております。移植拠点病院事業の目標は、次の3つです。

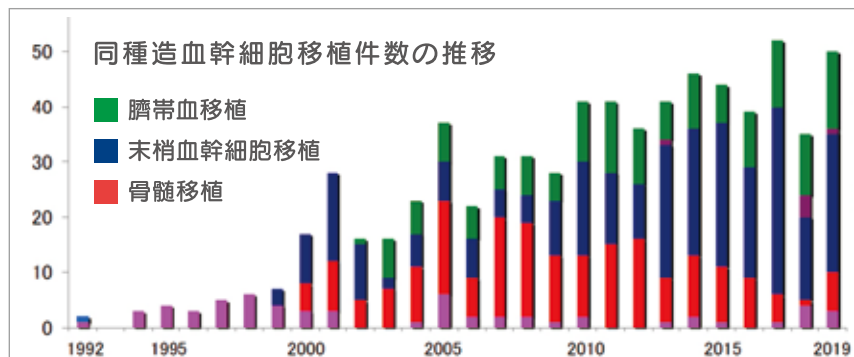
- ・造血幹細胞移植を必要としている患者さんに対して、適切な時期に、適切な種類の移植を提供できる体制作り
- ・どこの地域にいても、誰でも、より安全に受けることができる治療方法となること
- ・長期生存されている患者さんの、移植後のより良い長期フォローアップ体制の構築を実現すること

当院はこれらの目標を達成し、担当である近畿地区の移植医療の発展のために、人材育成、コーディネート支援、地域連携事業を行って参りました。その結果、近畿地区は、骨髄バンクのコーディネート(調整)期間が全国で最短となっており、そのスピーディな対応が評価されています。また、患者さんやかかりつけの先生方が移植施設を探しやすいように、ホームページ上に造血細胞移植施設マップ検索システムも公開しています。

2020年度から、全国の移植拠点病院は計12に増えます。さらに、近畿地区の各府県に協力していただける地域拠点病院を指定し、共に連携して移植医療のさらなる発展に貢献してまいります。

造血幹細胞移植に関することなど、お気軽にご相談いただければ幸いです。

(血液内科・造血細胞移植科 日野雅之)



造血幹細胞移植推進拠点病院としての当院のシンボルマーク

側弯症の治療について

側弯症とは脊椎が弯曲(わんきょく)する病気であり、子供から高齢者まで幅広い年齢層で見られます。

小児期～思春期にみられる側弯症のほとんどは特発性側弯症といわれ、女兒に多く、原因ははっきりしていません。特発性側弯症は弯曲の程度や身長伸び具合によって装具療法を行ったり、手術を行ったりします。

一方、壮年～高齢者で見られる側弯症は変性後側弯症といわれ、椎間板の損傷や骨粗鬆症性椎体骨折、脊柱起立筋の減少などによって生じるとされています。変性後側弯症では装具療法は行わずに生活指導や運動療法が主となりますが、神経痛や腰痛が強い場合には手術を行います。側弯症の手術はかなり侵襲(患者さんの体への負担)が大きく、時間もかかります。当科では安全に手術を行うための設備と経験豊富なスタッフが充実しており、関西でも屈指の手術症例数を誇っておりますが、安易に手術をすすめることはなく、患者さんと相談の上、治療を進めていきます。

お子さんの脊椎の弯曲が気になる方、大人で立位姿勢の維持が困難な方は、かかりつけのお医者様に当院の脊椎外科専門医への受診をご相談ください。

(整形外科 寺井秀富)



特発性側弯症。
左は手術前、右は手術後。



変性後側弯症。
左は手術前、右は手術後。

大阪府初!!

大阪府で初!! 最新型 PET/CT 装置が導入されました

— MedCity21 の人間ドックで、最新の PET/CT 検診が受けられます —

最新型半導体PET/CT装置であるシーメンス社製「バイオグラフ ビジョン 450」が大阪府下で初めて、2019年10月から当院にて稼働スタートしました。従来のPET/CT検査においては、「1cm以下のがんは発見困難な場合がある」と言われてきましたが、最新型の本装置を使った検査では数ミリ程度の悪性病変も検出可能であり、今までにない精度の高いがん検査をご提供できます。

あべのハルカス21階にある先端予防医療部附属クリニックMedCity21では2019年12月から、「バイオグラフ ビジョン 450」によるFDG-PET/CT検査を組み込んだPET/CTエグゼクティブコースを受けることができます。詳しくはMedCity21へお問い合わせください。最新型半導体PET/CT装置の能力を最大限に活用して予防医療に役立ててまいります。

(核医学検査室)

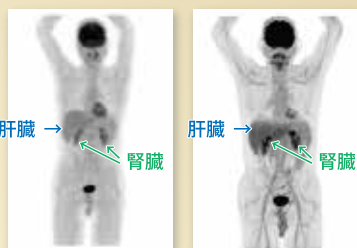


図1a

図1b

従来のPET/CT装置と最新のPET/CT装置によって撮像された、健常人のMaximum Intensity Projection(MIP)画像を提示します。MIP画像は微小な病変の描出に優れた表示方法で、PET検査の読影の基本となる画像です。

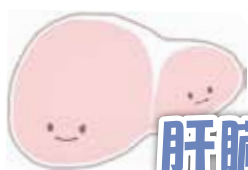
図1aの従来のPET/CT装置の画像と比べて、図1bの最新のPET/CT装置の画像は肝臓、腎臓などの臓器の辺縁の描出が非常にシャープで、皮膚の輪郭や主要大動脈壁も明瞭に描画されています。FDG集積のある実質臓器と集積の低い軟部組織とのコントラストも鮮明です。

PET/CT検査とは: PET検査とCT検査を同時に実施できる専用装置を使って行う、がんの発見にとっても有用な検査です。

FDG-PET検査とは: がん細胞が通常の細胞と比較して3~8倍ものブドウ糖を消費するという性質を利用した検査です。つまり、ブドウ糖に近い成分であるFDGと呼ばれる放射性物質を体内に静脈注射し、がん細胞がFDGを取り込んだあと、FDGが発する放射線を画像化することで、がんの転移や再発病変を見つけたり、治療効果を判定できる検査です。



シーメンス社製「バイオグラフ ビジョン 450」と核医学検査室スタッフ



大人気!!

肝臓病教室を開催しました!!

2020年2月8日(土)、あべのハルカスにて肝胆膵病態内科学主催「肝臓病教室」を開催しました。肝疾患診療連携拠点病院でもある本院では、多くの方に肝臓病の治療や予防に関する知識を深めていただくことを目的に年に2回、肝臓病に特化した公開講座を実施しています。今回は、肝胆膵病態内科学 河田則文教授の挨拶を皮切りに、4名(医師及び看護師)の講演、パネルディスカッションや肝硬度測定(20名限定)を行いました。

当日は約250名もの方にお越しいただき、パネルディスカッションでは参加者からさまざまな病気や健康に関する質問がなされ、医師や看護師、栄養士、薬剤師らがアドバイスをおくりました。

(患者支援課)



参加者のみなさまに、楽しく分かりやすく説明する肝胆膵病態内科学の河田則文教授



参加いただいた250名ものみなさまに、肝臓病に関する最新の情報をご紹介します。



災害訓練で地震等発生時の多数傷病者の診療をスムーズに！

本院は大阪府の災害拠点病院に指定されており、例年、以下の通り災害時患者受入訓練を実施しております。

全体訓練

2019年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止となりましたが、例年、総勢150名以上の教職員や学生が参加して全体訓練が行われています。訓練では、ストレッチャーで運ばれてきた模擬患者をトリアージ（患者さんの重症度に基づいて、治療の優先度を決定して選別を行うこと）の上、重症度別に診療し、スマートフォンを用いて患者情報をスムーズに共有します。



全体訓練の様子（写真は、2018年度）

例年は、派手なケガのメイクをした模擬患者が本番さながらに痛みを訴えるなど、臨場感あふれる訓練を行っています。

災害対策本部訓練

令和2年2月17日に近隣の医療機関と共に災害対策本部に特化した合同訓練を実施しました。災害発生時は院内の被災状況や、インフラ被害、患者情報等、様々な情報が錯綜（さくそう）するため、机上シミュレーションを行い、災害発生時に本部が迅速に指揮命令できるよう訓練を実施しております。

本学教員等が考案した「災害時院内情報管理システム」を使用することで、今までは病院18階まで階段を使用して情報を回収していたのが、タブレットを用いて各病棟の情報を瞬時に本部に収集できるなど、リアルタイムに対応できるようになりました。実災害時に今回の訓練が活かされるよう、今後も対応してまいります。



災害対策本部訓練の様子

「災害時院内情報管理システム」を使用して、瞬時に各病棟の情報を本部に集約。迅速な指揮命令を目指します。

（庶務課）

KAIZEN report session 医療の質向上に向けた KAIZEN 報告会が開催されました

令和2年2月18日（火）、第12回KAIZEN報告会本選会が病院5階講堂にて開催されました。

KAIZEN報告会とは、医療の質向上に向けてチームで取り組んだ業務改善活動（KAIZEN活動）の結果を発表する、平成20年度より行っている毎年恒例のイベントです。事前に行われた予選会で高評価を得た上位6チームが、今回の本選会へ出場となりました。

本選会の演題発表では、各チーム個性的なスライドで発表を行い、審査員や聴講者は真剣に聞き入っていました。審査の結果、ナースエイド「移送レンジャー・エイド隊」の『安心・安全な患者移送を行おう』という取り組みが金賞に輝き、患者総合支援センター「患者総合支援センターコラボチーム」による『長時間お待たせしませんー3時間以上のお待たせZEROへー』が銀賞、病理部「ときめき隊+仲間たち」による『未閲覧リストで見忘れ防止』が銅賞を受賞しました。



グラフや図の入ったスライドを用いて、分かりやすい発表が行われました。



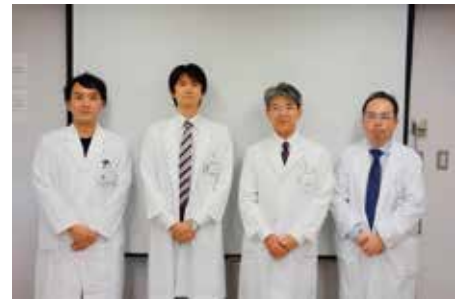
本選会参加チーム。これからも、熱意あふれる取り組みを期待しています。

金・銀・銅賞の3チームは、本年11月に堺市で開催される第22回フォーラム「医療の改善活動」全国大会への切符を手に入れました。質の良い医療提供のため、今後もこの業務改善活動を継続してまいります。

（KAIZEN推進委員会）

シリーズ 診療科紹介 腎臓内科

当科では、糸球体腎炎・ネフローゼ症候群を中心に腎疾患全般を幅広く診療しております。血尿や蛋白尿を認める患者さんには腎生検で確定診断を行い、ステロイドを含む免疫抑制剤で最新の治療を行っております。また 1330 万人を数える新たな国民病とも言われる慢性腎臓病（CKD）や、透析導入の原因となる疾患の第一位である糖尿病性腎症の患者さんには、看護師、管理栄養士、生活習慣病・糖尿病センターとも協力し、栄養指導を含む集約的治療で対応しております。遺伝疾患である多発性嚢胞（のうほう）腎の患者さんに対しても専門診で最適な医療を提供しております。



腎臓内科メンバー

一方、CKD の悪化や急性腎障害等を来した患者さんにも、人工じん部と連携しながら、血液透析をはじめとする様々な血液浄化療法で安心した医療を受けていただけるように、腎臓のフルサポートに努めております。

（腎臓内科 森克仁）

シリーズ 第13回 ～認定看護師の活動について～

当院では、専門的な知識と視点を持つ認定看護師・専門看護師が協力しながら対応・活動しています。

今回は「がん化学療法看護認定看護師」についてご紹介します。

私達「がん化学療法看護認定看護師」は外来の化学療法センターに所属し、通院で抗がん剤治療を受ける患者さんの支援をしています。抗がん剤治療はさまざまな副作用を伴うため、以前は入院が必要でしたが、点滴時間が短い治療や、吐き気止めなど副作用を軽減させる薬剤ができたことにより、仕事や通学などの社会生活を継続しながら、外来通院で受けられる治療が増えています。

治療中は、身体的な副作用だけでなく、気持ちのつらさもおこりやすくなります。私達が所属している化学療法センターでは、各部署の看護師やがん相談支援センターと協力して患者さんやご家族の相談にのっています。仕事や通学と治療を両立させたい方、副作用で困っている方など、お気軽に主治医または看護師を通じてご相談ください。

（がん化学療法看護認定看護師 岩見明子・中野妙子）



認定看護師とは、公益社団法人日本看護協会の認定看護師認定審査に合格し、ある特定の看護分野において、熟練した看護技術と知識を有することが認められた者をいいます。
 ※公益社団法人日本看護協会ホームページから引用 <http://nintei.nurse.or.jp/nursing/qualification/cn>



7/10 (金) コンサート
 医学部オーケストラ部による演奏
 時間 17:00～17:45
 場所 病院 5階講堂

7/31 (金) マーブルフェスタ
 ボランティアによる夏祭り
 時間 13:00～
 場所 病院 5階講堂

8/11 (火) コンサート
 ドリームサポーターズによるカラオケコンサート
 時間 15:00～16:00
 場所 病院 5階講堂

8/27 (木) コンサート
 相愛大学による演奏
 時間 15:45～16:30
 場所 病院 5階講堂

9/17 (木) サイエンスラボ
 大阪科学技術館によるおもしろ科学実験
 時間 13:00～13:40
 場所 病院 18階 第4会議室

※新型コロナウイルス感染防止の観点から、日程及びイベント内容については変更・中止する場合がございます。予めご了承のほどお願い申し上げます。

発行 / 大阪市立大学医学部附属病院

<http://www.hosp.med.osaka-cu.ac.jp/>

所在地：〒545-8586 大阪市阿倍野区旭町1丁目5番7号
 電話：(06) 6645-2121 (代表)

初診受付時間：午前9時～午前10時30分
 休診日：土・日・祝日、12月29日～1月3日